

8204 西洋紀元というものは、・・・

西洋紀元というものは、いうまでもなくキリスト誕生の年を元年とする年の数え方で、いまではこの年の数え方が世界的な基準となっており、この基準なしには世界史もつかめなくなってしまうている。

キリスト教と歴史的に関係の無い国がキリスト生誕を基準とする西洋紀元を用いるのは、その民族にとっていかにも非歴史的のように思われるが、どんな民族の歴史といえども、世界史と無関係につづられてきたわけではない。

森本哲郎『二十世紀を歩く』

[許容訳例]

It goes without saying that the Christian calendar is a way of reckoning years in which the first year is the year of the birth of Christ, and by now the way of counting has become a world-recognized standard without which we would be unable to understand world history.

It might seem peculiarly unhistorical, from the viewpoint of the people of a country that has, historically, nothing to do with Christianity, that that country should adopt the Christian calendar whose basis is the year of the birth of Jesus, but there is no people whose history has been made independently of world history as a whole.

[翻訳例]

The Western calendar, as scarcely needs pointing out, is a way of reckoning the years that takes the birth of Christ as its starting-point; by now, the way of reckoning has become a recognized norm without which it would be impossible to get a comprehensive view of world history.

For a country historically unrelated to Christianity to employ a calendar whose starting-point is the year of Christ's birth might seem peculiarly unhistorical from the viewpoint of that country's people, yet there has never been a nation whose history was fashioned independently of world history as a whole.

■西洋紀元というものは、いうまでもなくキリスト誕生の年を元年とする年の数え方で、・・・(8204)

★「西洋紀元」は the Western calendar か the Christen calendar でしょう。

★「いうまでもなく」は it goes without saying でも間違いではありませんが、この表現からとっさに思い浮かぶのは「当然」という訳語で、たとえば、It goes without saying that the company will pay compensation. (当然、会社が補償します) のように使います。ここでは「西洋紀元というものは、いうまでもなく・・・」という日本語の順序を守りたいので、It goes without saying that…と先頭に出すのではなく as scarcely needs pointing out とか、あるいはこういう場合に一番便利な of course を使うといいと思います。たとえば、The Western

calendar, of course[as scarcely needs pointing out,・・・のように.

★「キリスト誕生の年を元年とする」は、文字通りに訳すと the first year is the year of the birth of Christ ですが、他にも言い方があります. take the birth of Christ as its starting point とか、start from the birth of Christ です.

◆動名詞と不定詞：冠詞の使い方

★「年の数え方」は a way of reckoning[counting] (the) years です. a way to reckon[count]・・・と不定詞にするとこれから行う一時的な方法を表します. 不定詞(to-Inf.)は「以後」を表す連結辞の機能を持っているからです. ここでは以前から・通時的に行われてきたことを述べるのですから「以前・通時」を表す動名詞を使います. それから(the) years ですが、years でも間違いではありませんが、どちらかと言うと the years の方がいいでしょう. というのは、reckoning years というと、たとえば counting apples という場合と同じように、years が個々のものという感じになってしまうのです. しかし、この場合は、個々のものとしての years ではなく、総体としてとたえるので the years がいいのです.

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(キリスト誕生の年を元年とする年の数え方)

「キリスト誕生の年を元年とする年の数え方」は「連体修飾節(キリスト誕生の年を元年とする)＋不定代名詞的体言(年の数え方)」ですから「名詞(a way of reckoning the years)＋関係詞節(that takes the birth of Christ as its starting point; that starts from the birth of Christ; in which the first year is the year of the birth of Christ)で表すことが出来ます.

● [で]

ここの [で] は [で, (そして・同時に)] と解釈できるので and を使うことが出来なくはないのですが、前半と後半の内容にあまり関連性がない場合に and で結ぶのは感心しません.むしろ切ってしまうか、セミコロン(;)にするか、あるいは関係代名詞を使うかにすると思います.つまり、「キリスト誕生の年を元年とする年の数え方で、いまではこの年の数え方が・・・」と続くので a way of reckoning[counting] the years と全部を繰り返すことなく a way which・・・とすることができるわけです.

■いまではこの年の数え方が世界的な基準となっており、(8204)

★「いまでは」は now ではちょっと弱いので nowadays か、あるいは by now が一番いいかもしれません.

★「この年の数え方が」は、上でのべたように a way which by now・・・です.

★「世界的な基準」は訳しにくい.「基準」はしばしば「望ましい水準＝標準」で用いられますが、本来は「基準＝並み＝平均的水準」ということで、ここの意味は「どこの国でもこれが当たり前だ」という感じですから、英語では norm が相当すると思われます.辞書を引くと standard; criterion; basis などが出てきます. standard は has become standard throughout the world とすれば、「基準」という意味とはちょっと違うので必ずしもいいとは思いませんが、少なくとも英語としては抵抗なく読めます.あるいは has become a world-recognized standard にすると「基準」の意味は出てきます. criterion というのは、何

か判断する・評価する，というときに使う「基準」ですし，basis というのは「～に基づいて何かを作り上げる」という場合の「基準」ですから，どちらも「どこの国でもこれが当たり前だ」という感じには物足りないです。

★「(基準と) なっており・・・」は現在時制(is)ではなく，過去に始まったことが現在も続いているのですから現在完了(has become)にした方がいいです。the way of reckoning has become a recognized norm; the way of counting has become a world-recognized standard です。

●関係代名詞を使う典型的な構造

「(基準となって) [おり]，この基準なしには・・・」は，上の「キリスト誕生の年を元年とする年の数え方で，いまではこの年の数え方が・・・」と同じような構造の文で，ここも関係代名詞を使うと非常に英語らしい言い方になるところです。つまり，and without it...の代わりに without which...を使うわけです。

■この基準なしには世界史もつかめないようになってしまっている。(8204)

★「この基準なしには」は，上で示したように without which...とします。

★「世界史もつかめないようになってしまっている」の「つかむ」は「(世界の歴史) 全体を把握する」という意味と思われます。したがって understand でも意味はわかるし間違いではありませんが，ちょっと物足りない感じがします。だからといって「つかむ」に grasp を使って grasp world history とすると，何だか world history が小さくなったような感じがします。ですから grasp を使うなら名詞として使って get a grasp of world history という形にした方がいいでしょう。ただ，日本語の意味に一番近くするなら，ちょっと難しいですが get a comprehensive view of world history と言葉を補うといいと思います。

★「・・・もつかめないようになってしまっている」は微妙な言い方だと思います。「ように」をどう解釈するかで二つの変換が可能です。一つは「・・・するようになる」(become) と解釈して「それがなくなったから・・・もつかめなくなってしまった」という意味です。すると過去に始まった現在の事実ですから，たとえば，(without which) we have become unable to...と書くことが出来ます。しかし，これは後半の趣旨に反します。もう一つは「たとえば・・・ように」と言外に仮定を含めている場合です。そうすると (without which) it would be impossible to...と変換することが出来ます。

■キリスト教と歴史的に関係の無い国がキリスト生誕を基準とする西洋紀元を用いるのは，その民族にとっていかにも非歴史的のように思われるが，(8204)

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(・・・と関係の無い国)

「キリスト教と歴史的に関係の無い国」は「連体修飾節 (キリスト教と歴史的に関係の無い) ＋不定代名詞的体言 (国)」ですから，英語では「名詞(a country)＋関係詞節(which has historically nothing to do with Christianity)」です。ただし，関係詞を使わないで a country historically unrelated to Christianity とすることも出来ます。

●「連帯修飾節＋隠れ不定代名詞体言」(キリスト生誕を基準とする西洋紀元 (の暦))

「キリスト生誕を基準とする西洋紀元」は「連体修飾節（キリスト生誕を基準とする）＋特定体言（西洋紀元）」として「特定名詞(the Christian era)＋関係詞節(whose basis is the year of the birth of Jesus[Christ])」で表すこともできますが、よく考えてみると「キリスト生誕を基準とする西洋紀元」は日本語として饒舌（あるいはこの筆者の好み）で、「キリスト生誕を基準とする暦」としなければ、次の「用いる」と合いません。したがって、ここは「連体修飾節（キリスト生誕を基準とする）＋不定代名詞的体言（暦）」と解した方が自然の英語（普通に通じる英語）になります。a calendar whose starting-point is the year of Christ's birth のように。

★「用いる」には employ が日本語の意味に一番近いと思います。他に use とか adopt も可能ですが、adopt は「これからはこれを使うことに決める」という意味です。

●「キリスト教と歴史的に関係の無い国が・・・するのは」

「(～が)・・・するのは・・・」には定型的な構造があります。To do something is...であり、この場合のように「～が」という主語がある場合は For...を付ければいいのです。たとえば、For a woman to smoke cigars is still considered rather unusual.のように、この構造が一番この場合の日本語には近いし、英語としても自然と思われれます。したがって、For a country which has historically nothing to do with Christianity とか For a country historically unrelated to Christianity is...となります。

★「その民族にとって」も難しい。It seems to the people...というようにすると「その人たちの目には（そういう風に映る）」という意味になってしまいます。to~の代わりに for~を使ってもその人たちが中心になってしまい、to~とあまり変わりません。「その民族にとって」とは「その民族の立場になって考えれば」ということなので、ここは where its people is concerned とか、あるいは from the viewpoint of...とすればいいと思われれます。

★「いかにも」は「非歴史的・・・」に副詞とか形容詞を前に付けるしかないと思いますが、peculiarly が一番いいと思われれます。他に very とか remarkable も可能です。

★「非歴史的」という言葉は筆者（森本哲郎）の造語ではないかと思います。どういう意味かわかりにくいのですが、たぶん「その民族の歴史の中から自然に生まれたものではなく、何かこう無理に外から取り入れられた（と思われる）もの」という意味で使ったのだろーと思います。その曖昧さを読者にわからせるには unhistorical なら伝わると思います。あるいは historical contradiction とか historical anomaly とか。

★「・・・のように思われる [が] (そうではない)」は、ほとんどの場合 It might seem..., but...を使うのが一番いいと思います。この It の代わりに他の主語を入れればいいのです。

● [が]

[が] は but か yet です。

■どんな民族の歴史といえども、世界史と無関係につづられてきたわけではない。(8204)

★「どんな民族の歴史といえども・・・わけではない」は全部否定ですから there has never been a people whose history...か、there is no people whose history...です。ついでながら、

no people's history has been made[fashioned]…では「どんな民族の歴史といえども」という感じはでてきません.

★「世界史と無関係に」はそのまま訳すと independently of world history ですが, 英語では… world history as a whole とか the rest of world history とかにします.

★「つづられてきた」は have been made でもいいですが, made ではちょっと弱い感じがです. fashioned とか woven の方がいいでしょう.